

宮崎県立看護大学 研究シーズ集

2021年度版



保健師 ひいくん

助産師 むうちゃん

看護師 かあくん

宮崎県立看護大学から地域の皆さまへ

学長 平野 かよ子

地域の皆さまこんにちは。

宮崎県立大学は今年、創立24年を迎え、これまでに2400名以上の卒業生を県内はもとより全国の病院、保健所、市町村に送り出してきました。学生は在学中、多くの病院や助産所、高齢者・乳幼児の施設、県保健所・市町村の皆様に実習等でお世話になり、良い経験をたくさんさせていただきました。この間に、教員も実践の場で起きる課題等を学ばせていただき、それらを、教育をはじめ調査研究に生かさせていただいてきています。

ここに現在在籍する教員の主な関心領域と研究テーマについて少し具体的な内容を紹介させていただきました。さらに「Information(情報)」では、皆さまにどのようにお役に立てるかをお伝えしています。

今後、保健・医療の領域のみならず、福祉・介護、学校教育・社会教育、さらには企業の皆さまとも協働していきたいと思いますので、本学ホームページにあります「教員紹介」からお気軽にお問合せください。

よろしくお願いいたします。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集とは

「宮崎県立看護大学 研究シーズ集」は、各研究者が研究テーマ、研究の概要およびその成果について、出前講義や連携した調査研究が可能なテーマなどをコンパクトにまとめ、企業等の産業界や医療機関、学外の研究者の皆様にご紹介するものです。

シーズは分野ごとに分かれており、お探ししたい分野についてPDFの一覧でご覧いただけます。また、それぞれのシーズの教員名から、プロフィールページへリンクできます。

出前講義の依頼や委託研究および共同研究のテーマ探しなどにご活用ください。

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2021年度版 目次

分野	領域	職位	氏名	研究テーマ	頁
専門分野	基礎看護学	教授	山岸仁美	実践方法論の意識的適用・神経難病患者への看護	1
		准教授	津田智子	看護技術の教育に関する研究 看護技術のエビデンスに関する研究	2
		講師	毛利聖子	看護理論の修得過程/人権・倫理教育の構築	3
		助教	坂井謙次	実習指導の自己評価に関する研究	4
		助手	伊尾喜恵	学生が患者像を描く過程に関する研究	5
		助手	吹上苑子	学生が自ら学ぶ力を高めるための指導に関する研究	6
	精神看護学	准教授	川村道子	精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力育成	7
		助教	河野義貴	精神疾患に関する早期介入と再発予防	8
		助教	葛島慎吾	精神科看護実践における直観に関する研究	9
		助手	池間功一	精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究	10
	在宅看護学	准教授	川原瑞代	地域志向の看護力育成	11
		助教	金子美千代	地域での暮らしを支える人材養成	12
		助教	中角吉伸	要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究	13
		助手	宮ゆうこ	がん終末期高齢者の”その人らしさ”を支える訪問看護師の看護の特徴	14
	公衆衛生看護学	教授	小野美奈子	保健師の実践力強化を目指した現任教育	15
		准教授	中村千穂子	がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発	16
		准教授	松本憲子	母親の育児力形成支援に関する研究	17
		講師	河野朋美	知的障害者の受診支援／健康管理支援	18
		講師	高橋秀治	地域における生活習慣予防活動に関する研究	19
		講師	高本佳代子	健康推進を目的とした地域ネットワークに関する研究	20
		助教	岡崎実子	小離島の保健活動の展開方法の特徴と推進要因	21
	母性看護学	教授	長鶴美佐子	思春期および更年期健康支援開発に関する研究	22
		講師	壹岐さより	妊孕性に重点をおいた思春期健康支援	23
		助教	大野理恵	更年期女性への健康支援に関する研究	24
		助手	長友舞	女性の健康支援に関する研究	25
	小児看護学	講師	甲斐鈴恵	健やかな親子を育む子育て支援に関する研究	26
		講師	橋口奈穂美	学生の自己評価能力を高める実習指導方法に関する研究	27
		助手	五反田奈々	医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因	28

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2021年度版 目次

分野	領域	職位	氏名	研究テーマ	頁
専門分野	成人看護学	教授	久野暢子	HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援	29
		准教授	矢野朋実	遺伝性のがんの患者と家族への看護	30
		講師	山岡深雪	慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援	31
		助手	上富史子	1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた看護学生のアセスメントの特徴	32
		助手	川西幸広	看護学生の技術習得に関する研究	33
	老年看護学	教授	重久加代子	がん看護におけるケアリングの研究	34
		助手	武田あゆみ	高齢者のQOLに関する研究	35
	体験・統合 科目Ⅱ	教授	栗原保子	看護学教育における教育方法に関する研究	36
		講師	勝野絵梨奈	感染看護における教育方法に関する研究	37
		助教	武田千穂	感染管理を推進する看護職者の教育プログラムに関する研究	38
専門基礎 分野	看護人間学 Ⅰ	教授	島内千恵子	速乾性擦式手指消毒薬の消毒効果を低下させないための使用方法の検討	39
		教授	菅野幸子	看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略	40
		教授	田中美智子	健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究	41
		准教授	邊木園幸	高齢者施設における感染対策に関する研究	42
	看護人間学 Ⅱ	講師	藏元恵里子	1. 看護行為で生じる身体活動の測定・評価 2. 神経難病患者の療養下における看護実践の可視化に関する研究	43
	看護人間学 Ⅲ	教授	中尾裕之	特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化 ～自治体への支援のために～	44
普遍分野	自然界と 看護	准教授	小河一敏	看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築	45
	人間社会と 看護	教授	串間敦郎	高齢者の介護予防運動の開発と普及	46
		特任教授	佐藤信人	超高齢社会における社会福祉の在り方に関する研究	47
		助手	原村幸代	脳血管障害急性期にある患者の家族への看護	48
	個の尊重と 看護	教授	川北直子	多読学習の効果、看護学生と異文化理解	49
		講師	ヘンスリー ジョール	国際コミュニケーションツールを備えるため	50
	文化と看護	教授	大館真晴	日本上代文学作品の文献学的研究	51
		准教授	長坂 猛	睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力	52
別科助産専攻		教授	濱寄真由美	育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発	53
		講師	神菌洋子	高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究	54
		助教	福永美紀	熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス	55
		助手	山本眞海	月経随伴症状のある女性のプレコンセプションケア	56



研究テーマ

実践方法論の意識的適用・神経難病患者への看護

【キーワード：ナイチンゲール看護論 修得過程
神経難病看護】

領域・氏名

看護（基礎看護学） 教授／ 山岸仁美

概要

ナイチンゲール看護論を土台とした、看護実践能力の修得過程を高めるための教育・実践研究を行っています。看護職者の認識に、理論枠組みがどのように形成されているかを意識化することが、表現技術を高めることにつながるという立場から研究をおこなってきています。さらに、神経難病患者への日々のケアを支える看護職者の認識に焦点をあてた研究を進めています。

具体的な内容

基礎教育における学生の実践方法論の意識的適用のあり方を、講義・演習・実習における学生の成長過程として浮き彫りにする研究を行っています。さらに、現場での看護職者との事例検討を積み重ねることでの成長過程を、看護実践を対象と看護者のと関わりまると事実的にとらえ分析する手法を用いて明らかにしていきます。神経難病をもつ対象特性にそった、看護実践のあり方を、看護職者のインタビューをもとに概念化するという取り組みに着手しています。

Information（情報）

事例検討会を施設や学習会で行っています。看護実践を対象と看護者との関わりの具体的事実をもとに、関わりの対象にとっての意味と対象への看護の方向性を見出し実践につなげるという学びは、現場の看護の質と看護者が自負心をもって実践を行いチーム力が高まることを日々実感しています。

看護技術の教育に関する研究 看護技術のエビデンスに関する研究

【キーワード：看護技術、看護技術教育】

領域・氏名

[看護（基礎看護学）](#) [准教授／](#) [津田智子](#)

概要

看護の専門技術である看護技術、特に初学者の基本的な看護技術の修得過程に関心があります。看護技術を効果的に修得していく上で鍵となる「実施した看護技術を自己評価する力」を高める教育のあり方や、看護技術の科学性の検証について研究しています。

具体的な内容

これまで、看護技術を学び始めた初学者を対象に、看護技術の修得過程を分析、検討してきました。見出された学生の修得状況の特徴や自己評価の特徴から効果的な教育について考えたことを日々の教育実践に生かしています。

Information（情報）

看護の基盤となる考え方や看護技術に関するテーマでの出前講義は可能です。



研究テーマ

看護理論の修得過程／人権・倫理教育の構築

【キーワード：看護理論、人権・倫理、医療・看護の歴史】

領域・氏名

看護（基礎看護学） 講師／ 毛利聖子

概要

ナイチンゲールを軸に、よりよい看護実践ができるように、看護理論を修得するプロセスに着目し、看護理論と実践の繋がりを研究しています。また、医療や看護の歴史をたどり、人権を護り、人間に対する深い理解と倫理観を培う教育内容の構築を目指しています。

具体的な内容

実践の現場で対応困難な事例、方向性が見えない事例など、事実を整理し、事例検討会を行っています。どのように対象をみていけばよいのか、どこにどのような問題が存在しているのか、など看護理論を活用し検討しています。また、看護の基盤となる人間の見つめ方、人間理解を深めるために、人間が病む人をどのように見つめて来たか歴史を辿り、現在の人権擁護・医療者の倫理を考えます。

Information（情報）

事例検討会のチューターを行っています。「科学的看護論」の理論枠組みに基づく「実践方法論」を適用し、よりよい看護実践に向けて共に考えていきます。看護の基盤となる考え方をもとに、看護の質向上をめざした取り組みを現場の皆さんと共に行っています。

著書：『看護理論の修得過程における共通構造の可視化』
研究報告：『看護学生が学ぶ「人権論」の授業への試み』
短報：『看護学生の「医の歴史と倫理」の授業からの学び』

実習指導の自己評価に関する研究

【キーワード：臨地実習、実習指導、指導過程、自己評価】

領域・氏名

看護（基礎看護学） 助教 / 坂井謙次

概要

臨地実習指導において、学生の関わりが患者にとって看護となるように指導できているかと、指導を自己評価しながらより良い指導となるよう努めることが求められます。諸現象が絡み合う実習状況において、どのように自己評価することがより良い指導につながるかについて研究しています。

具体的な内容

これまで、実習指導場面を患者—学生—教員の関係性から見つめ、指導後の学生の変化の意味や教員の指導上の判断について分析、検討してきました。

また、基礎看護学実習の振り返り授業における指導場面における教員の思考を対象に、教員が実習当時の指導を自己評価している思考の特徴を分析し、「実習指導を自己評価するための指針」を抽出しました。

現在は、実習中の指導場面における教員の思考について分析し、実習指導を自己評価するための思考の構造を明らかにしたいと考え、取り組んでいます。

Information（情報）

実習指導の振り返りだけでなく、看護実践の振り返りについての検討において、連携が可能です。

学生が患者像を描く過程に関する研究

【キーワード：基礎看護学実習、看護学生、患者像】

領域・氏名

看護（基礎看護学） 助手／ 伊尾喜恵

概要

学生にとって初めての実習である基礎看護学実習において学生はどのように患者の事実に着目し、感じ考えながら患者を捉えていくのか、その過程の特徴を明らかにする研究です。

具体的な内容

学生が実習において、どのような事実に着目し、どのようなことを感じ考えているのか、目には見えない学生の認識活動の特徴を明らかにしました。今後は学生が患者を捉えるという認識活動を意識しながら実習指導を行い、学生の看護実践力の更なる向上につなげていきたいと考えております。

Information（情報）



研究テーマ

学生が自ら学ぶ力を高めるための指導に関する研究

【キーワード：主体性、学生指導】

領域・氏名

看護（基礎看護学） 助手／ 吹上苑子

概要

看護学生が看護に必要な知識や技術を主体的に高めていくことの必要性を実感できるような、指導のありかたや教育について関心があります

具体的な内容

臨床での後輩指導を通して、若手看護師が看護職者として自ら看護の学びを深め看護実践力の向上を目指していけるような支援をする難しさを感じていました。

基礎教育の現場で実習や演習の指導を通して、学生が看護実践力を修得する過程での効果的な指導のありかたについて研究に取り組みたいと考えています。

Information（情報）

精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力育成

【キーワード：精神科病院、臨床実践力、研修プログラム】

領域・氏名

看護（精神看護学） 教授／ 川村道子

概要

精神科病院への新卒看護師就職は1施設平均2.2人と極めて少ないことから、貴重な人材として育成していきたいところですが、教育担当者が新人教育を行う過程での悩みからメンタルダウンを来たして休職に追い込まれることもあります。看護に対してはプロですが、教育に関しては手探りでやっている現状があります。そこで、新人看護師に精神看護をどのように指導していけばよいのか、そのためには何を学ばよいのか、そのプログラムを開発します。

具体的な内容

4回シリーズの研修会ですが、教育原理に触れながら、また実際の指導場面を用いて、現象から指導の構造を捉えるといった演習を取り入れたプログラムを準備します。

Information（情報）

【研究成果について】宮崎県立看護大学看護研究・研修センターの地域貢献事業として令和4年度まで継続して実施する取り組みです。実践内容は取り組みの成果等は事業年報で報告していきます。

【実践・出前講座について】各病院で実施する研修会に出向くこともできます。どうぞお問い合わせください。

精神疾患に関する早期介入と再発予防

【キーワード：性教育、マインドフルネス】

領域・氏名

看護（精神看護学）助教／ 河野義貴

概要

思春期男性の声を聞きながら、悩みを小さくし、社会の中で生きる力が身に付けられるプログラムを検討しています。

また、マインドフルネス（瞑想）を使って、メンタルヘルス研修を行い、思考や気持ちを整えるための研修を行っています。

具体的な内容

これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育』のプログラム作成に携わってきました。

女性の月経教育は充実しつつありますが、男性の性教育は確立できていない段階です。思春期の男性の疑問や悩みを聞きながら性教育を行っています。性の問題は「生きる力」と深くつながっており、「生きる力」を身に付ける事はその後の人生を大きく左右します。変化する社会の中で柔軟に対応できる「生きる力」を身に付けられるプログラムを検討しています。

また、マインドフルネス（瞑想）を使って、未来を予測して抱く不安や過去の後悔を忘れて、今、その時の感覚に集中して日々の生活を充実できるようにするための研修を行っています。

Information（情報）

「男性の性教育」「マインドフルネスを活用したメンタルヘルス研修」を行っています。このテーマでの出前講座は可能です。

精神科看護実践における直観に関する研究

【キーワード：精神科、看護実践、直観】

領域・氏名

看護（精神看護学）助教／ 葛島慎吾

概要

精神科看護実践において、看護師の直観は有用であると言われていますが、直観的な判断や実践は言語化されないことが多いと考えています。以上を踏まえ、精神科看護実践における直観を実践に適用するための研究をしています。

具体的な内容

これまで、国内外の文献を検討し、精神科看護実践において、直観が危機的で緊急性の高い臨床状況で使用されていること、直観に基づいた行動に影響を与える因子として医師や看護師などの同僚との関係といった外的な因子と自信・自己疑念・恐れといった内的な因子がみられること、看護師が直観に従ってそのまま行動するのではなく、実際には直観に医師や看護師などの同僚の意見やバイタルサインなどの客観的データが重なり合い行動に結びついていることなどを明らかにしました。

現在、精神科看護師を対象としたインタビュー調査を通して、精神科看護実践における看護師の直観が行動に結びつくまでのプロセスを明らかにする研究を実施しています。

Information（情報）

精神科看護師の臨床判断や直観に関するテーマで出前講義が可能です。専門看護師（精神看護）としても活動していますので、お問い合わせください。

精神科病院における退院支援に活かす 精神科退院前訪問に関する研究

【キーワード：地域移行支援、精神科退院前訪問】

領域・氏名

看護（精神看護学） 助手／池間功一

概要

日本の精神科では在院日数の長期化が課題となっています。そこで私は、精神科病院において患者様が退院後地域生活を送るために必要な看護について研究を行っています。

具体的な内容

精神科では患者様の地域移行が進められていますが、現状では、地域移行が困難である事例も少なくありません。その中で、精神科退院前訪問は制度開始以降、様々な病院で活用されています。しかし、具体的な内容については各病院にゆだねられており、各病院によって様々な運用がなされている現状があります。精神科退院前訪問で得た情報や指導内容と病棟内看護とを循環し、患者の退院支援に活かす退院前訪問の在り方を明らかにすることで、「入院治療から地域中心へ」という精神保健福祉の改革ビジョンを実現に貢献できる一助となると考えています。

information

地域志向の看護力育成

【キーワード：訪問看護、教育プログラム、地域志向】

領域・氏名

看護（在宅看護学）准教授／ 川原瑞代

概要

在宅療養が推進される中、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師の育成が求められています。地域を志向した看護力の現状や課題の分析や地域特性とニーズをふまえた、地域志向看護教育プログラムの開発等に取り組んでいます。

具体的な内容

「地域特性に応じた地域連携の実際」「訪問看護ステーションの機能強化に関わる実態」「新卒訪問看護師育成のための標準プログラムの開発と検証」等について、宮崎県、宮崎県看護協会、訪問看護ステーション、医療機関等と協力し実践活動や研究活動に取り組んでいます。段階的な教育プログラムの作成や研修体系の構築の中でも特に、OJTとOff-JTが連携した、新卒訪問看護師の教育の在り方が近年の重要なテーマです。

一般的に、経験豊富な訪問看護師が就業すると考えられている訪問看護ステーションですが、療養者や家族のニーズが多様化し、訪問看護人材の不足が深刻な問題となっており、新卒訪問看護師の養成には大きな期待が8名の新卒訪問看護師が誕生し、それぞれの成長に合わせた支援の重要性や課題、新卒訪問看護師や管理者、プリセプターへの支援の重要性、育成プログラムの有用性などが明らかになっています。

Information（情報）

専門職向けには在宅看護、地域包括ケア、地域志向の看護力などについての研修、一般の方向けには高齢の方への介護や健康づくり等の研修に携わっていますので、お問い合わせください。また、新卒訪問看護師育成に興味のある方、ぜひお知らせください。

地域での暮らしを支える人材養成

【キーワード：在宅ケア、看護教育、療養支援】

領域・氏名

看護（在宅看護学）助教／ 金子美千代

概要

これから到来する少子高齢多死社会においては、地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現に向けて、住み慣れた地域での暮らしを支える人材の育成は喫緊の課題です。地域での暮らしを最期まで支える看護職の役割遂行について研究しています。

具体的な内容

文部科学省平成26年度「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された「地域の暮らしを最期まで支える人材養成-離島・へき地をフィールドとした教育プログラム-」に取り組んできました。、在宅看護において不可欠である、「対象を生活者として捉え、その人らしさを尊重する視点」をしっかりとってもらうことを核とし、人材育成の効果を得ました。現在は、教育プログラムに離島・僻地をフィールドとした、その有用性について分析しています。

information

* 専門職に対しては、保健医療福祉職が対象者や家族の揺れ動く意思を汲み取り、多職種で共有し、対象者にとって最善の医療・ケアが提供できるように「地域包括ケアシステム」「ACP」「看取り支援」等についてシンポジウムや研修等を行ってきました。また、在宅看護に関しては、コンサルテーション事業、管理者養成研修、多職種連携ハイブリッドシュミレータSCENARIOを用いたフィジカルアセスメント研修等を行ってきました。これらの研修等であれば、施設の実情や要望等に応じて出前講義は検討できますので、お問い合わせください。

要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究

【キーワード：介護予防、運動プログラム、高齢者】

領域・氏名

看護（在宅看護学）助教／ 中角吉伸

概要

要支援・要介護状態の高齢者が、本人の望む場所で生活・療養するためには、日常生活動作（以後ADL）が維持され介護度が上がらないことが重要となります。そのために、できるかぎりADLを維持するための運動プログラムについて研究しています。

具体的な内容

これまで、宮崎県立看護大学と宮崎市が協力して、健康高齢者の介護予防のために介護予防運動プログラム「宮崎いきいき健幸体操」の開発や普及を行ってきました。その中で、普及活動の一環として運動指導員の養成や施設職員に対する専門研修会等で、運営の一員として参加してきました。会を重ねる中で、実際に運動指導を行っている現状において、要支援者や要介護者に運動プログラムを適用することが困難であるという問題が浮き彫りになってきました。

少子高齢社会を向え、将来の年金や医療制度の維持存続が不安視される中、高齢者の健康寿命を延伸する支援が求められます。しかし、高齢者は個々の病歴や生活歴によって運動機能に差があり、安全に効果的に運動プログラムを実施する難しさがあります。そのため、自助や互助によって、地域住民同士でも健康増進が図れるツールの開発が急務と考え、研究に取り組んでいます。

Information（情報）

「宮崎いきいき健幸体操」を基に、運動指導をする指導員の養成講座や、高齢者施設の職員に対して研修会を行ってきました。高齢者の健康維持増進に向けた運動指導等のテーマで出前講義が可能です。

がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える 訪問看護師の看護の特徴

【キーワード：その人らしさ、訪問看護、がん終末期】

領域・氏名

[看護（在宅看護学）助手／ 宮ゆうこ](#)

概要

がん終末期高齢者の“その人らしさ”を支える訪問看護師の看護の特徴を見出す研究に取り組んでいます。

具体的な内容

実習指導者として学生指導を行った際、高齢のがん終末期療養者へのケアを行っていた訪問看護師が、本人の望む生活や、生活リズム、医師の指示などを考慮しながら、本人の楽しみにしている生活を続けられるように関わっている姿に触れ、これらのケアを提供した訪問看護師は、療養者の「その人らしさ」をどのように捉えているのか、その人らしさを支える訪問看護の特徴にはどのようなものがあるのか、と考えるようになりました。人生の最期までその人らしい日々を過ごすことができるように、訪問看護師へのインタビューからその人らしさを支える訪問看護師の看護の特徴を明らかにしたいと考えています。

Information（情報）

保健師の実践力強化を目指した現任教育

【キーワード：保健師、現任教育プログラム】

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）教授／ 小野美奈子

概要

保健師の人材育成能力、実践力向上を目指し関係機関と協働し、新任・中堅・リーダー期にある保健師に対し、現任教育研修の企画・実施・評価を行いながら現任教育プログラムの開発と教育体制整備をおこなっています。

具体的な内容

アクションリサーチ的方法を用い、これまでに「宮崎県における段階別保健師研修体系の構築」「各研修の標準プログラムの開発」「保健師現任教育マニュアルの作成」を行いました。これらの研究的取り組みにより、＜保健所を中心とした研修運営＞＜アクションプランの実践を基盤に据えた実践型研修＞＜コンサルタントによる受講生支援＞という特徴を持つ宮崎県の段階別保健師研修体制を作り上げることができました。

現在は「標準プログラムの検証」「研修による受講生の成長」「研修運営を通じた保健所保健師の人材育成能力の向上の成果」を明らかにする研究に取り組んでいます。

Information（情報）

宮崎県立看護大学の地域貢献事業「保健師の力育成事業」として取り組んでいます。

宮崎県、宮崎県看護協会、宮崎県保健師長会、等の連携協働のもと研修会の開催、研究を行っています。

保健師向けに公開講座等の開催を行っています。

がんを経験した看護職者を対象とした ピアサポート研修プログラム開発

【キーワード：がん体験 ピアサポート】

領域・氏名

専門（公衆衛生看護学）准教授／ 中村千穂子

概要

現在、国民の2人に1人はがんにかかるといわれ、国のがん対策推進基本計画ではピアサポートの充実が述べられています。がんを経験した看護職者を対象に医療職者であると同時にがん体験者であるという2つの立場からがん患者のピアサポートができることを目指した研修プログラムの開発を目的としています。

具体的な内容

がんを経験した看護職者の患者会にてカフェやピアカウンセリングナーズ養成講座の開催に携わってきました。養成講座では、ピアサポートの基本や臨床倫理について、コミュニケーションについてなどを講義だけではなくロールプレイを交えながら学べる内容にしています。今後は、参加者がどのように学びを活かしているか、どのような研修内容が実践につながっているのかを明らかにしていきたいと考えています。その結果をもとに、ピアカウンセリングナーズ養成講座やフォローアップ研修の内容の充実を図っていききたいと考えています。

Information（情報）

がん体験を看護に活かしていきたいと考えている方たちと一緒にとりくんでいきたいと思えます。

母親の育児力形成支援に関する研究

【キーワード：母親、育児力、育児支援】

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）准教授／ 松本憲子

概要

育児不安を持つ母親や児童虐待相談件数の増加が地域母子保健における課題となっています。このため、育児期のストレスが最も大きい一歳児を育てる母親の育児力の実態を「一歳児を育てる母親の育児力尺度」を用いて捉え、その結果をもとに、母親の育児力形成を促す支援について探求していきます。

具体的な内容

大学で開催していた子育て教室で、育児不安や育児ストレスのある母親の育児力を高める看護について明らかにする中で、現代の母親の育児力の低さに着目し、育児力に関する文献検討を行い、育児力を構成する概念について明らかにしました。その後、一歳児を育てる母親の育児力の実態を調査し、母親の育児力を高める支援の物差しとして、「一歳児を育てる母親の育児力尺度」の開発を行いました。

少子化になり、経験的に子育てを学ぶ機会が少なくなっている母親たちが行う育児は、時にネグレクト状態にある母親もあり、母子の愛着形成が不完全なまま子どもが育つことが懸念されます。このため、母親が安心して育児ができるための地域における育児力形成支援について考えていきます。

Information（情報）

「すべての母親と子どもに笑顔があふれるまちづくり」を目指して、地域母子保健に関係する方々とつながりたいと思っています。

知的障害者の受診支援／健康管理支援

【キーワード：（知的）障害者の受診/健康
健康格差の縮小 ソーシャルインクルージョン 】

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）講師／ 河野朋美

概要

地域で暮らす人々の健康格差を縮小するための支援について研究しています。なかでも、知的障害者の方々は生活習慣病をはじめとする健康課題を多く有しているにも関わらず、医療機関の受診や自身での健康管理に困難を感じていることから、それらの現状の改善につながる具体的な取り組みを明らかにしたいと考えています。

具体的な内容

これまで「知的障害者の受診支援」をテーマに、知的障害者と保護者が医療機関の受診を困難と感じるプロセスや現状、ニーズ、必要な支援、課題などを明らかにしてきました。現在は、障害者就労支援施設B型の健康管理に着眼し、体制強化とその支援に向けた調査・分析に取り組むための検討を重ねています。

information

障害を抱える方やその支援者の方々と多くつながり、生の声をたくさん聞かせていただきたいと思います。当事者の方、関係者の方のご連絡等お待ちしております。

地域における生活習慣予防活動に関する研究

【キーワード：生活習慣病予防、保健師】

領域・氏名

専門（公衆衛生看護学）講師／ 高橋秀治

概要

生活習慣病は死因の約6割を占めるなど重要な健康問題となっています。生活習慣病は多くの要因が関連して発症・重症化していくため、対象に応じた予防活動が重要です。生活習慣病予防活動の具体的な方策について研究を行っています。

具体的な内容

現在は、壮年期独身男性のソーシャルサポートを活かした生活習慣改善支援モデルの開発に取り組んでいます。壮年期独身男性の生活習慣の特徴や特に社会的なつながり持ち、影響を及ぼし合いながら生活しているのかをインタビュー調査や質問調査等から明らかにしていきたいと考えています。

また、2017年より日之影町と協働して町ケーブルテレビ放送を活用した健康づくりの実践研究にも取り組んでいます。本学保健師教育課程学生とともに住民の方に町の課題や具体的な生活習慣改善の方法について気軽に学べるように番組を製作し、ライフスタイルに合わせて24時間視聴できるように環境を整備しました。今後は、これらの活動が及ぼした住民の健康への効果について評価していきたいと考えています。

Information（情報）

生活習慣予防活動や保健指導について、地域で活動されている保健師の皆さんと一緒に考えていけたらと思っています。

健康推進を目的とした地域ネットワークに関する研究

【キーワード：ソーシャル・キャピタル
地域コミュニティ 健康なまちづくり 】

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）講師／ 高本佳代子

概要

ソーシャル・キャピタル（SC）の豊かな地域づくりについて研究をしています。健康づくりは、一般的には個人の意識に拠るものが大きいと考えられていますが、個人の健康づくりを実践し、継続していくためには人と人とのつながりを強め、お互いに支え合う、まちづくりの要素が重要です。健康なまちづくりの形成要因や持続可能要因を検討しています。

具体的な内容

これまで「健康推進を目的とした地域ネットワークに関する研究」をテーマに、健康分野におけるソーシャル・キャピタルの形成要因に、小学校区単位の組織化や連携システムなどのルール化のほか、健康問題の情報の可視化といったトリガーが重要である点を、そして、持続可能要因にはメンバーのエンパワメントにつながる支援が重要である点などを明らかにしてきました。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、デジタル化が加速し、オンライン等での取組が進んでいます。現在は、デジタル社会におけるSCが豊かな地域コミュニティづくりについて研究を進めています。

information

健康なまちづくりの事例やそのプロセスなどについて紹介ができます。また、SCに関心のある行政保健師さん方とともに健康でいきいきと暮らせる地域づくりを行ってまいりたいと考えています。

※ソーシャル・キャピタル：人々の協調行動を活発化することによって、社会効率性を高めることができる、「信頼」や「互酬性の規範」、「ネットワーク」といった社会組織の特徴

研究テーマ

小離島の保健活動の展開方法の特徴と推進要因

【キーワード：離島、島嶼、保健師、活動、支援】

領域・氏名

看護（公衆衛生看護学）助教／ 岡崎実子

概要

小離島で働く保健師は、狭小性、隔絶性、孤立性という地理的特性があり、OJTを受ける機会が少ない中で活動しており、新任期であっても高度な実践能力が求められます。専門職や支援が少ない中で、どのようにしてそれらを獲得していくのか、その実践のプロセスや保健活動の展開方法の特徴を研究しています。

具体的な内容

沖縄県の離島・僻地町村の各種保健医療福祉計画の策定と活用状況について調査しました。今後は、沖縄県を中心に、全国の孤立小型離島に勤務する保健師に、保健活動の展開方法とその特徴、推進要因について、インタビューすることを計画しています。

Information（情報）

思春期および更年期健康支援開発に関する研究

【キーワード：思春期、更年期、ヘルスケア】

領域・氏名

看護（母性看護学・助産）教授／ 長鶴美佐子

概要

思春期健康支援を実践しながら、支援に必要なツールの開発と評価を行っています。2021年度より更年期女性の健康支援に関わる研究に着手し始めました。

具体的な内容

これまで、「思春期教育」、「月経ヘルスケア」、「性教育」をキーワードに思春期健康支援開発に取り組んできました。

月経ヘルスケアでは、3075名の女子高校生への実態調査をもとに「月経ヘルスケアプログラム」を開発、その効果を検証後「学校版月経ヘルスケアプログラムとその視聴覚教材」の開発を行い、県内すべての小・中・高校への配付することができました。また、高校進学で思春期に親元を離れる中山間地域の中学生や保護者を対象にした思春期健康支援（性教育他）の実践と研究に取り組んできました。2021年度より更年期女性の健康支援に関わる事業と研究に取り組みます。

Information（情報）

【研究成果について】「学校版月経ヘルスケアプログラムとその視聴覚教材」「中山間地域における健康支援とその教材」に関する資料を希望の方はご連絡ください。

【実践・出前講座について】小学生・中学生・高校生・保護者を対象に、「思春期」「性」「いのち」のキーワードで出前講座を実践しています。

妊孕性に重点をおいた思春期健康支援

【キーワード：思春期、性教育、妊孕性、不妊症】

領域・氏名

看護（母性看護学）講師／ 壹岐さより

概要

生殖補助医療の発展は目覚ましいものですが、その一方で不妊治療による悩みやこころの負担は決して小さいものではありません。不妊症を予防するためにも男女とも思春期からの妊孕性の教育を含めた性教育を探究していきます。

具体的な内容

これまで児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育』のプログラム作成に携わってきました。性感染症や望まない妊娠を教育する性教育も大切ですが、自分の身体に関心を持ちながらセルフケアできる力が必要であることがわかってきました。また、生殖医療相談士として活動する中で、不妊治療中の心身の負担を軽減する必要性も感じてきました。女性も男性も思春期からセルフケアできるために必要な知識や教育について研究しています。

Information（情報）

すべての女性が自分のライフサイクルを見すえて出産できるような支援を目指して、地域の様々な職種と連携していきたいと考えています。



研究テーマ

更年期女性への健康支援に関する研究

【キーワード：更年期、生活調整、健康支援】

領域・氏名

看護（母性看護学）助教／ 大野理恵

概要

更年期を迎える女性は身体面のみならず、心理・社会面でも変化が大きい時期を体験します。そして、症状の苦慮する人は多いですがその具体的な対処や予防法について理解し実践している人は少ないです。女性自らが更年期と上手に向き合うためのセルフケアができるよう、その支援の在り方を探求します。

具体的な内容

これまで、男子学生を対象にした母性看護学実習の指導の在り方についての研究や中山間地域の思春期の健康支援について研究をしてきました。

2021年度より更年期女性の健康支援に関わる事業と研究に取り組みます。更年期を迎える前の女性が自らの更年期に関心を持ち、正しい知識を身につけて、自身の体と心の変化をありのままに受け止め、セルフケア能力を高めて自分らしく過ごせるための支援について検討していきます。

Information（情報）

女性の健康支援に関する研究

【キーワード：】

領域・氏名

看護（母性看護学）助手／ 長友舞

概要

思春期女性への健康支援を目的とした健康支援プログラム開発を行っています。

具体的な内容

これまで、県内の高校生を対象とした「月経ヘルスケア」、児童養護施設の『生きる力「性＝生」教育」のプログラム作成に携わってきました。

「月経ヘルスケア」では、県内の女子高校生への実態調査を行い、「月経ヘルスケアプログラム」の開発、またその効果を検証し、学校版月経ヘルスケアプログラムとその視聴覚教材の開発を行いました。また、その結果を県内の小学校・中学校・高校への配付することができました。

現在は、進学により、親元を離れる中山間地域の中学生や保護者を対象にした思春期健康支援を行い、現状や課題、ニーズを明らかにすることを目的とし研究に取り組んでいます。

Information（情報）

健やかな親子を育む子育て支援に関する研究

【キーワード：子育て支援、おもちゃ、電子メディア】

領域・氏名

専門（小児看護学） 講師／ 甲斐鈴恵

概要

親子が集う場を提供し、子どもが健やかに育まれるために必要なニーズや課題を明らかにしています。現在は、乳幼児の電子メディア接触について研究を行っています。

具体的な内容

優良なおもちゃを用いた「おもちゃ広場」を「グッド・トイみやざき」と協同で大学内および県や民間企業と連携し県内各地のイベント会場で開催しています。その活動の中から、子育てにおけるニーズや課題を明らかにしています。

また現在は、乳幼児の電子メディア接触について「子どもとメディアみやざき」と協同で実態調査を行い、その結果の一部を学会発表し、報告書を作成しました。また、啓発活動に活用できるリーフレットをともに作成しました。

Information（情報）

上記活動は、「グッド・トイみやざき」、「子どもとメディアみやざき」との協同実践(研究)です。

「こどもとおもちゃ」「子どもの成長発達」「電子メディア」のキーワードでの出前講座が可能です。

学生の自己評価能力を高める実習指導方法に関する研究

【キーワード：自己評価、実習指導、分娩介助実習】

領域・氏名

看護（小児看護学）講師 / 橋口奈穂美

概要

助産師教育では学生一人につき分娩を10例程度直接取り扱うことが規程されています。更に正常分娩においては分娩期の診断とケアについて、学生は少しの助言で自立してできるようになることが到達目標として求められています。学生は、分娩介助1例毎に自己評価を行い指導者からの評価を受けることで、次に向けての自己課題を明らかにして、分娩期の診断とケアの実践能力をつけていきます。学生が到達目標をめざして効果的な実習ができるかどうかは、学生と指導者の実習の振り返り（評価）の仕方に左右されるとも言われています。研究では、学生が適正に自己評価できるための実習指導方法を明らかにすることに取り組んでいます。

具体的な内容

分娩介助1例毎に学生と指導者の振り返りを研究素材として分析します。振り返りでの学生の発言に対して指導者の考えや感じたこと、それに基づいて発言したことを分析し、学生の自己評価能力を高める実習指導上の指針を導き出していきます。

実習指導についてはこれまでに、「臨地実習における指導過程の『省察』的取組の成果 -分娩介助実習における指導上の実践知の検討-」など、実習中の指導についても検討してきました。

Information（情報）

実習指導に関する事以外にも、新人助産師への支援や助産師のキャリアアップのための研修会の企画・運営なども行っています。



研究テーマ

医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因

【キーワード：小児 医療的ケア 子育ての喜び 】

領域・氏名

看護（小児看護学） 助手／ 五反田奈々

概要

医療的ケアが必要な子どもをもつ養育者が、子育ての喜びを感じるまでのプロセスやその要因について明らかにする研究です。

具体的な内容

医療的ケアを必要とする子どもの家族は、わが子の疾患や障がいを知ったときから、さまざまな心理的プロセスを経て、子育ての喜びを感じていることが明らかになりました。今後も在宅療養に必要な支援や看護師のかかわりの必要性について研究を進めていきたいと考えています。

information

HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援

【キーワード：HIV陽性者、セクシュアルヘルス支援】

領域・氏名

看護（成人看護学）教授／ 久野暢子

概要

HIV感染者/AIDS患者（以下、HIV陽性者）へのセクシュアルヘルス支援に関する現状や課題を明らかにし、よりよい看護支援を検討する研究です。

具体的な内容

これまでHIV陽性者の方へのより良い支援を目指して、在宅療養支援や看護師への教育方法の視点から研究してきました（科研費：17791592, 21592894, 25670915, 17K12213）。その中で、HIV陽性者の方への看護支援においてはセクシュアルヘルス支援が重要であるにもかかわらず、多くの看護師が困難感を抱えていることが見え、早急に解決すべきと考えました。しかし、この「困難感」は目に見えないものであり把握しづらいため、現在、これを測定する尺度開発とそれを用いての現状解明からより良い看護支援への示唆を得るための研究を行っています。

Information（情報）

本研究は熊本大学や首都大学東京、国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センターとの共同研究です。宮崎県内で一緒に研究に取り組んでくれる方を募集しています。

遺伝性のがんの患者と家族への看護

【キーワード：遺伝性腫瘍、HBOC、遺伝がん看護】

領域・氏名

看護（成人看護学）准教授／ 矢野朋実

概要

遺伝性のがん、特に遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）の方とその家族を対象に、彼らが認知する“不確かさ”について明らかにし、“不確かさ”のマネジメントを促進する看護援助モデルを構築しようとする研究に取り組んでいます。

具体的な内容

第3期がん対策推進基本計画の策定を契機に、わが国も本格的ながんゲノム医療時代に突入しました。この中で、遺伝性のがん（遺伝性腫瘍）も注目されています。

遺伝性腫瘍の医療体制は構築半ばです。九州圏内のがん臨床看護職を対象にした遺伝性腫瘍の認識に関する調査（2016年実施）では、がんと遺伝に関心はあるものの、遺伝性腫瘍の知識を持つ者はわずかでした。看護師の知識の底上げが求められています。

遺伝がん看護を行うにあたり、対象理解が前提となります。身体面に関することは研究が進んでいますが、心理面について国内ではほとんど明らかにされていません。そこで、心理的側面を、質的、量的に明らかにすることで、対象理解を深め、それに基づいた看護支援を見出していきたいと考えています。

Information（情報）

遺伝性のがん、がん教育、手術を受ける患者・家族の看護、救急医療における看護に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生や一般市民を対象にした救急蘇生法の講習も実施しています。

慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援

【キーワード：慢性疾患、看護、療養生活支援】

領域・氏名

専門（成人看護学）講師／ 山岡深雪

概要

慢性疾患を抱えて生活している患者に、その人らしく療養生活を送れるよう支えるための看護について研究していきたいと考えています。

具体的な内容

慢性疼痛患者の生活再構築を支える看護師の関わりを研究素材とし分析した結果から、患者が生活過程を振り返り調整できるよう支えることが大事であるとの結果を得ました。今後は、慢性疾患の悪化や発見によって入院されたが、現在、在宅療養でコントロール良好な方のインタビューを通して、その方々の生活過程の振り返りの在り方について抽出していければと考えています。

Information（情報）

糖尿病看護や、リハビリテーション看護、慢性疼痛患者への看護に関する共同研究を希望します。

1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた実習前の 看護学生のアセスメントの特徴

【キーワード： 1. 中堅看護師、臨床判断
2. 看護学生、アセスメント】

領域・氏名

看護（成人看護学） 助手／ 上富史子

概要

1. 中堅看護師が潜在的に持っている自己の臨床判断を顕在化し、看護実践への自信確立につなげられるために、中堅看護師を対象とした研究に取り組んでいます。
2. 成人看護学における実習前の看護学生のアセスメントの特徴について、計量テキスト分析を用いた研究に取り組んでいます。

具体的な内容

1. 看護実践の中心的役割を担う3～5年目中堅看護師を対象にして、術後せん妄状態にある患者に対する臨床判断の要素と構造を明らかにした研究を行っています。中堅看護師が自己の看護実践を客観的に振り返り、実践力向上につなげられるような支援を見出していきたいと考えております。
2. 計量テキスト分析を用いて、実習前の看護学生のアセスメント内容の特徴を抽出し、可視化することで、看護実践力の育成に向けた成人看護学での技術教育への示唆を得る目的で研究を行っています。

Information（情報）

看護学生の技術習得に関する研究

【キーワード：左利き 教育 技術習得 】

領域・氏名

看護（成人看護学）助手／ 川西幸広

概要

看護師は道具を巧みに使用し、ケアを行います。左利きの看護学生の看護技術習得の困難を明らかにし、技術指導方法の質的向上に寄与します。

具体的な内容

教育機関における左利き看護学生への看護技術教授方法の実態調査を行います。また巧緻性の高い看護技術に関して、左利きの学生の困難を明らかにし、よりよい技術指導方法を考察します。

information

なし

がん看護におけるケアリングの研究

【キーワード：ケアリング、がん看護、効果】

領域・氏名

看護（老年看護学）教授／ 重久加代子

概要

質の高いがん看護を提供するためには、ケアリング能力を高め、がん看護のケアリングを実践する必要があります。そのため、がん看護特有のケアリングとは何か、ケアリングの効果とは何か、について研究しています。

具体的な内容

- ・ケアリングの実践を促進するために、「ケアリング行動質問紙」を作成し、ケアリング行動の実践と看護実践力、看護へ姿勢、自己充実的達成動機が関連していることを明らかにしました。
- ・がん看護専門看護師やがんサバイバーを対象に、質的研究、量的研究により、がん看護に特有なケアリングを抽出し、がん看護特有のケアリングを基盤とするケアリングの構造を導きました。
- ・治療を受けるために入院しているがん患者を対象に、がん患者の「能動的実践的態度」に影響するケアリングとその効果の大きさについて明らかにしました。
- ・今後は、がん看護のケアリング実践力測定尺度を開発し、ケアリング能力を高めるための研究に取り組んでいきたいと考えています。

Information（情報）

ケアリング、エンドオブライフケア、高齢者の看護、認知症の予防などに関するテーマでの出前講義が可能です。

高齢者のQOLに関する研究

【キーワード：高齢者 QOL】

領域・氏名

看護（老年看護学） 助手／ 武田あゆみ

概要

高齢者が最期までその人らしく「生ききる」ことを支え、いかなる状態であろうと、生命が存続する限り、ひとりの人として、その人らしく生を全うできるよう支援するための看護を研究したいと考えています。

具体的な内容

臨床看護師として「死」の場面に立ち会った時、「自分の看護はこれでよかったのだろうか」という不安を抱いてきました。最期までその人らしく、QOLを最大限に保ちながらその人にとってのよい死を迎えられるようにする看護について興味をもち、高齢者のQOLに関する研究の文献研究に参加しました。これまでに自己の取り組みとしての研究実績はないのですが、研究・教育を通して深めていきたいと考えています。

Information（情報）

看護学教育における教育方法に関する研究

【キーワード：指導過程、リフレクション、
感染看護、教育プログラム開発】

領域・氏名

看護（体験・統合科目Ⅱ；看護教育、等）教授／栗原保子

概要

看護学教育では、社会の変化に伴う医療提供の場の多様化に対応できる看護実践能力を高めるための人材育成の内容や方法を多角的な視点から検討していきます。看護学と教育学の理論に基づいて、教育内容（方法）、教育課程、教育制度等について学修し、どのようなあり方が望ましいのかを探究していきます。

具体的な内容

看護基礎教育および看護継続教育の教育全般において、実践の場で生じている教育現象にみる課題の探究を行っています。看護学生の看護実践に対する自己評価能力を高めるための実習指導方法に関する研究や、看護学生の自己評価能力の向上を目指したCAI<学習支援システム>の開発等、教育実践の過程を研究的に取り組んでいます。また、継続教育では、医療施設の感染管理におけるリーダー育成を目的とした出前方式体験型研修プログラムを開発する等、研究の成果を現場に還元しながら継続的に取り組んでいるところです。

Information（情報）

学生の興味・関心を尊重し、課題探究のための研究支援を行っています。看護学の教育・実践に対する課題解決にチャレンジしようとする意欲のある方をお待ちしています。

感染看護における教育方法に関する研究

【キーワード：感染看護、コンピテンシー、教育方法】

領域・氏名

看護（体験・統合科目） 講師／ 勝野絵梨奈

概要

感染看護の実践において求められる能力や資質を明らかにする事を通し、それらを育成するために効果的な教授・学習方法の開発や評価指標の作成へ取り組むことで、学士課程における感染看護に関する看護実践能力の向上に寄与していきたいと考えています。

具体的な内容

医療関連感染の発生・拡大予防には、全ての医療従事者の確実な感染予防対策が不可欠となります。このことは、臨地実習で直接患者と関わる看護学生においても同様で、学生が感染症から自らを守り、自らが感染源となることを防ぐためにも、感染予防の基本原則をふまえた教育の徹底を図ることは、看護基礎教育においても重要であるといえます。そこで現在、感染看護に関する学生の看護実践能力の向上を目指すため、学士課程における感染看護に関するコンピテンシーを抽出することを目的とした研究（文部科学省科学研究費 若手研究：19K19537）に取り組んでいます。

Information（情報）

これまで、医療施設の感染管理に貢献できるリーダー的人材の育成を目的とした体験型研修プログラムを開発・実践してきました。感染対策の基本となる標準予防策に関するテーマでの出前講義は可能です。

感染管理を推進する看護職者の教育プログラムに関する研究

【キーワード：感染管理、多職種連携、教育プログラム】

領域・氏名

専門（体験・統合科目） 助教／ 武田千穂

概要

感染管理を推進する看護職者の多職種連携実践能力を育む教育プログラムの検討を目的とした研究に取り組むことで、感染管理を推進できる看護職者のリーダー育成や医療施設における感染管理の充実を図りたいと考えています。

具体的な内容

医療施設では、多職種が各々の専門性を発揮し連携しながら患者を中心としたチーム医療を実施しています。感染管理の推進においては、多職種から構成される感染対策チームが中心となり活動しています。感染対策チームには、患者や家族、医療従事者を対象にした組織的な活動が求められ、その中心的役割を担う看護職者の役割は重要です。看護職者が専門知識や技術を修得し所属施設における役割を遂行する過程で、どのように多職種連携を図っているのかを明らかにすることを通して、感染管理の推進に向けた多職種連携の実践能力を育む教育を検討できるのではないかと考えます。

そこで現在、感染管理を推進する看護職者の多職種連携実践能力を育む教育プログラムの検討を目的とした研究に取り組んでいます。

Information（情報）

医療施設において感染管理を推進できる看護職のリーダー育成を目的に、県内の医療施設において感染管理を担う看護職を対象とした研修会を開催し、感染管理教育プログラムを開発・実践しています。

感染管理認定看護師としての専門性を活かし、医療施設の感染管理に関する看護職者のニーズに応じた体験型の出前講座の実施が可能です。

研究テーマ

速乾性擦式手指消毒薬の消毒効果を低下させないための使用方法の検討

【キーワード：速乾性擦式手指消毒薬、手洗い、手指細菌、消毒効果】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ） 教授／ 島内千恵子

概要

感染予防対策として最も基本的で重要な手洗いや手指消毒の効果を、手指の細菌の培養によって検討してきました。その結果、手洗いの直後に速乾性擦式手指消毒薬を使用した場合、消毒効果の低下がみられることがわかってきました。このような消毒効果の低下を起こさないための使用方法の検討をしています。

具体的な内容

最近よく使われているアルコールを主成分とする速乾性擦式手指消毒薬ですが、手洗い直後に使うとその効果が低下し、使用後の手指から細菌が多数検出されることが多いことが、今まで行ってきた研究でわかってきました。また、消毒薬のクロルヘキシジングルコン酸塩が0.5 g/100mlと比較的高濃度で添加された手術時の速乾性擦式手指消毒薬は、手洗い直後に使用しても細菌の検出数が少ないことがわかってきましたが、検出菌数の多い場合もあります。そこで、手洗い後の使用に適している消毒薬の形状（ジェル状、液状）やクロルヘキシジングルコン酸塩の濃度について、さらに検討します。また、頻回に手洗い・手指消毒が実施される場合は、手洗いから時間をおかずに、速乾性擦式手指消毒薬による手指消毒が行われる可能性があるため、手洗いによる消毒効果の低下が、手洗い後どの程度の時間持続するかを検討します（科研費：24593239、19K10831）。

Information（情報）

「手洗い・手指消毒」など、感染とその予防についての出前講義が可能です。

看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略

【キーワード：生化学(代謝学)、到達目標、教育内容、教授方略】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ） 教授／ 菅野幸子

概要

看護学教育の充実に寄与することを目的とし、専門基礎科目である生化学(代謝学)の教育内容と教育方法の検討に取り組んでいます。看護学生が生化学(代謝学)をより本質的に理解し活用できる教育プログラムの構築を目指しています。

具体的な内容

専門基礎は看護実践の根拠となり、学生が可能な限り多くの専門基礎知識を十分に理解できることは大切です。これまで、生化学(代謝学)教育の到達目標の段階的表示に取組み、いわゆる生化学の枠組みを超えて、生命現象における代謝の意味するところに焦点をあて、“栄養素の「代謝学」”で教授する教育内容と、栄養素の【摂取-自己化-排出】のストーリーで、物質の変化を身体の構造・機能とつなげて具体的にイメージする教育方法により、省察的教育実践を重ねてきました。教育プログラムの有効性について検討しています。

Information（情報）

生化学(代謝学)、栄養学の講義、代謝学・栄養学の実験実習などを担当してきました。生化学、食育、栄養などに関する出前講義が可能です。

健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究

【キーワード：睡眠、自律神経反応、唾液ホルモン、ストレス】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ） 教授／ 田中美智子

概要

自宅での睡眠評価を通して、「生活上でのストレスが睡眠に及ぼす影響」や「睡眠状態が翌日の日常生活のパフォーマンスに及ぼす影響」を検討し、日常生活の質を向上させるための睡眠ケアとその効果について研究しています。

具体的な内容

これまで、成人、高齢者及び更年期女性を対象とし、自宅での睡眠を検討してきました（科研費:23493466, 15K11896, 19K11093）。成人女性では性周期で睡眠の質に影響する要因が違ってくことや更年期女性では勤務日と休日での睡眠や自律神経反応への影響の違いなどを明らかにしました。これらの研究を通して、睡眠が生活上のストレスに影響を受けていることが考えられましたが、その具体的内容を明らかにするには至っていません。また、翌朝の日常生活のパフォーマンスにも影響を与えるため、今後、個人の生活習慣を把握し、それにあった睡眠改善ケア（呼吸法やアロマなど）を行い、その効果を明らかにしていきたいと考えています。



測定機器：心拍モニターや体動などを捉えるモニターで眠りを調べています。

Information（情報）

本研究は福岡県立大学、宮崎大学、鹿児島純心女子大学との共同研究です。また、神奈川県立保健福祉大学、静岡県立大学や三重県立看護大学他の先生方とも「温めること」に関する共同研究を行っています。「睡眠・覚醒」、「ストレス」や「呼吸法」に関するテーマでの出前講義が可能です。

高齢者施設における感染対策に関する研究

【キーワード：感染対策、高齢者福祉施設、出前研修】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ） 准教授／ 邊木園幸

概要

高齢者施設における感染対策に関する県内の現状調査を行い、課題の抽出を行っています。その上で、感染管理認定看護師と共に実践型出前研修プログラムを構築し、高齢者施設へ出向いて研修を行います。そのような取組みを通して、高齢者施設の感染対策の充実を図ることを目指しています。

具体的な内容

県内の高齢者施設における感染対策の現状把握（アンケート調査）を行いました。関係機関及び感染管理認定看護師と協議しながら実践型出前研修・保健所との協働プログラムを計画しています。令和3年度は県内の高齢者施設を最大8施設訪問し、研修を行う予定です。

Information（情報）

医療機関だけでなく高齢者施設や福祉施設等の感染予防・感染対策も地域の課題と考え、試行錯誤しながら取り組んでいます。感染管理に関する出前講義が可能です。

1 看護行為で生じる身体活動の測定・評価

2 神経難病患者の療養下における看護実践の可視化に関する研究

【キーワード：看護行為、身体活動、筋電位活動、神経難病看護】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅱ） 講師／ 藏元恵里子

概要

看護の効果を可視化するための試みとして、看護行為に伴う身体活動や、表情変化で生じる顔面筋電位活動を計測し、看護学的検討を行ってきました。

また、臨地実習を担当した経験から、神経難病患者の療養下における看護学現象を可視化するため、看護学実習の内容分析・看護師からの語りの分析についても取り組んでいます。

具体的な内容

筋活動を視覚的に捉える手法として、筋電位トポグラフィ法があり、筋活動の部位や強さを色の濃淡で識別することができます。これを表情筋へ応用することにより、表情変化に伴う筋活動の変化を可視化することで、看護師の患者理解に対する客観性を高めることができるのではないかと考えています。これまで、無表情、笑顔、不快表情の作為的表情表出の指示を行い、顔面筋電位トポグラムを作成し解析を行いました（科研費：16K20727）。

また、看護大学1年次生が、神経難病患者の生活環境下の実習において、どのような事象に着目し、看護観につながる認識が形成されているか、その特徴を分析しました。現在、看護実践における語りから看護学的概念を分析しています（科研費：18K10246）。

Information（情報）

コ・メディカルの学生を対象とした生理学実習について講義を行っています。看護学生が人間のからだのしくみを統合的に描くための基礎的研究に取り組み、学習過程をどのように工夫すれば看護の専門性として高められるか、検討しています（宮崎県立看護大学平成30年度若手奨励研究）。

研究テーマ

特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する 分析とその可視化～自治体への支援のために～

【キーワード：地域、健康データ、分析、可視化、支援】

領域・氏名

専門基礎（看護人間学Ⅲ） 教授／ 中尾裕之

概要

地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し、様々な事業に活用できるよう、分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。また、データ解析や量的研究デザインに関して、看護研究へのサポートを行っています。

具体的な内容

医療や保健施策の分野においては、健康日本21、健康増進計画、医療費適正化計画などにおいて、実態の把握と課題の明確化、数値目標の設定を含む計画の策定、数値目標の評価と計画の見直しというPDCAサイクルを展開して保健事業を実施することが求められています。昨今、健診・保健指導・医療費・介護等のデータが利用可能なデータベースが整備されてきていますが、実際の分析や事業への利活用まではハードルが高く、大学等の研究機関による支援が求められています。

そこで我々は、地域で収集された健康データを客観的・科学的に分析し、様々な事業に活用できるよう、分析手法や可視化の方法の改良などに取り組んでいます。

この他に、高齢者のセクシュアリティに関する研究、飲酒量と総死亡の関係についてのメタ・アナリシスなどの研究を行っています。また、データ解析や量的研究デザインに関して、看護研究へのサポートを行っています。

Information（情報）

データの集計方法、データの可視化の方法、基本的な統計手法、量的研究方法などに関する出前講義が可能です。

看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築

【キーワード：『看護覚え書』、自然界、生活、教育】

領域・氏名

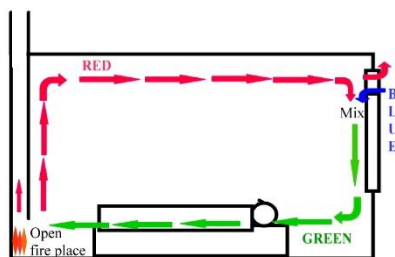
普遍（自然界と看護）准教授／ 小河一敏

概要

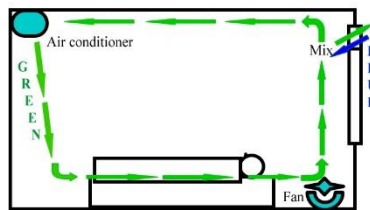
ナイチンゲール著『看護覚え書』を学生が理解できるための自然科学教育、体得できるための生活科学教育の構築がテーマです。

具体的な内容

『看護覚え書』第1章「換気と保温」の章でナイチンゲールが説く方法の根拠を、「伝導・放射・対流」という熱の伝わり方から説きました。19世紀英国の暖炉のある部屋の整え方を学ぶことで、学生は21世紀日本のエアコンのある部屋の整え方を考えます。



19C英国の部屋



21C日本の部屋

「住居の健康」「ベッドと寝具類」等々についても同様に学生がセルフケア能力を体得できる体系的な教育方法を構築しています。

「変化」では「窓の外を見たがった患者を背負って外を見せたため重病にかかった看護師」が紹介されています。学生が自身を傷めないため、ボディメカニクスの体系的な教育も実践しています。

Information（情報）

- ・ 京都大学高等教育研究開発推進センターMOSTギャラリー
- ・ 日本看護学教育学会第29回学術集会「看護ハナマル先生」
- ・ 生活を体系的に学ぶための「『看護覚え書』に学ぶ生活科学ワークノート」「同ガイドブック【教員用】」を刊行

高齢者の介護予防運動の開発と普及

【キーワード：高齢者、介護予防運動、健康寿命、体力】

領域・氏名

普遍分野（健康スポーツ科学） 教授／ 串間敦郎

概要

2004年から県内各地で、「高齢者を元気に」をテーマに介護予防運動の普及・啓発に努めてきました。

健康寿命の延伸や体操開発など、地域の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。

具体的な内容

転倒予防体操を三股町で「はんとけん体操」、旧佐土原町では「ひっこけん体操」として作製し、行政と協働で各地で普及・啓発に努めてきました。2013年からは宮崎市の健康運動教室で使用する11種類からなる介護予防運動「宮崎いきいき健幸体操」を宮崎市と共同で作製し、市内約130の教室で活用されています。

これまでに、介護予防運動の実証的な効果測定や、ラダー運動等の新しい予防運動の開発を行ってきており、高齢者の健康寿命の延伸に向けて研究を進めています。



Information（情報）

現在宮崎市と共同で、運動教室の指導員養成や介護施設等の職員向けに、介護予防運動の専門研修会を行っています。

高齢者の健康寿命延伸の出前講義、共同研究等可能です。若年期から壮年期までの健康の維持・増進のための出前講義（姿勢矯正、ウォーキング等）も行います。

超高齢社会における社会福祉の在り方に関する研究

【キーワード：ケアプラン、地域づくり、地域共生型認知症ケアパス、チームビルディング】

領域・氏名

普遍分野（人間社会と看護）特任教授／ 佐藤信人

概要

人口減少、高齢化でも幸せに暮らせる地域社会を作っていく必要があります。そのひとつとして、例えば、介護保険のアセスメントやケアプランの研究、認知症ケアを切り口にした地域共生社会の構築（地域共生型認知症ケアパス）、多職種連携のチームづくりなどを研究しています。

具体的な内容

アセスメントやケアプランは独自の様式を開発し東京都庁が行う法定研修に採用されており、宮崎市を含む多くの県、地域の研修で普及しています。また、認知症の人を地域で支えることを切り口にした地域共生型認知症ケアパスを研究開発し普及しています。加えて、多職種連携のために優れたケアチームを作るための演習を各地で開催してきました。

information

介護保険制度のアセスメント実施、ケアプランの作成などケアマネジメントに関する専門職、行政等との連携、地域共生型認知症ケアパス、地域住民等の方々と一緒に地域づくりを考える研修（演習）などについて出前研修を行います。



研究テーマ

脳血管障害急性期にある患者の家族への看護

【キーワード：脳血管障害、急性期、家族】

領域・氏名

普遍分野（人間社会と看護） 助手 / 原村幸代

概要

突然、脳血管障害となった方を支える家族への看護についての研究に取り組んでいます。

具体的な内容

脳血管障害は突然発症するため、状態が安定しない患者への看護が中心となりがちです。しかし、患者を支える家族も突然の出来事に遭遇し、様々なあり様の中で患者を支えています。患者が清明の危機を乗り越えていくためにも、家族の力は必要なものとなります。そのような家族の力を発揮できるように、家族への看護についての研究に取り組んでいきたいと考えています。

Information（情報）

多読学習の効果、看護学生と異文化理解

【キーワード：英語、多読学習、異文化理解】

領域・氏名

普遍分野（個の尊重と看護）教授／川北直子

概要

看護系大学生を対象とする英語教育のあり方の向上を目指した研究のほか、早期学習者(幼児・児童)から大学までの多読学習の長期継続による成果や、語彙に関する研究をしています。

具体的な内容

看護学生を対象とした研究では、英語と異文化理解を統合した授業のあり方、海外研修によって看護系大学の学部学生が何を学べるのかについて、洋書読書を通じた学習の意義・効果・課題について分析し、教育の改善に取り組んでいます。また、小中高校生と大学生一般を対象とした多読学習への導入と長期継続による効果について、語彙分析と学習者分析の視点から研究しています。学習者の個別性による課題を見出し支援できるよう、学習者1人1人をそれぞれ6-10年程度観察し続けています。

Information（情報）

小中学生を中心とした週末英語活動を行っています。英語読み聞かせ・多読学習への導入など、関心があれば見学にいらしてください。（現在はCovid-19のため、オンラインで継続中）



研究テーマ

国際コミュニケーションツールを備えるため

【キーワード：異文化間コミュニケーション、ESP、ENP】

領域・氏名

普遍分野（個の尊重と看護）講師／ヘンスリー ジョール

概要

生活習慣の認識と尊重、またコミュニケーションについて、特に異なる文化的背景の患者さんを行うことができるよう、看護学生のための教育方法論を模索しています。

具体的な内容

看護大学生が、国際化の進む世界に出て行くために準備できるような英語教育の目標をもって、看護と異文化間コミュニケーションの交差点で研究を行っています。私の研究のほとんどは英語の教授法に関してですが、過去数年間は、英語が専攻でない学生に向けた英語教育に専念してきました。この専門のための英語として知られている研究は、看護学生が将来のキャリアに向けて準備が整うよう、英語、看護、および異文化間コミュニケーションが重なり合うコミュニケーションスキルの向上について模索しています。これは、他の文化の患者さんをケアするだけでなく、旅行や、ボランティア、また海外での自分の研究を行うためのものです。この数年、この研究の多くは連携して行われ、看護大学生の英語教育についての見識が深まりつつあります。

Information（情報）

今、日本の看護師の異文化意識、態度、経験を調査しているところで、これらのトピックに関するインタビューを実施するボランティア参加者を募集します。

日本上代文学作品の文献学的研究

【キーワード：古事記、日本書紀、風土記、万葉集】

領域・氏名

[普遍分野（文化と看護）](#) [教授／](#) [大館真晴](#)

概要

上代文学作品（古事記・日本書紀・風土記・万葉集）の表現を研究しています。古事記・日本書紀・風土記・万葉集には、古代の社会制度や人々の生活のあり様を今に伝える貴重な情報が数多くあります。その魅力に一つ一つ迫っていきたいと思い研究しています。

具体的な内容

現在は大きく二つの研究テーマがあります。一つは古事記・日本書紀・風土記といった、上代散文作品と中国古典文学作品の影響関係を考察するものです。もう一つは、古風土記の写本の字体と、木簡や正倉院文書などの字体との比較研究を行うものです。

Information（情報）

2014年より宮崎県総合政策部・記紀編さん記念事業推進室の小学生・中学生・高校生を対象にした、出前講座「記紀みらい塾」の講師をつとめています。その出前講座では、古事記・日本書紀・風土記に記された日向神話の魅力を発信しています。

睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力

【キーワード：睡眠、心拍測定、ホルモン測定】

領域・氏名

普遍（文化と看護） 准教授／ 長坂 猛

概要

日常的な生活の中で得られた睡眠の質と、目覚めた後の情報処理能力や、疲労・眠気の相関を調べます。生理的な信号やホルモン物質の変動をもとに、翌日のパフォーマンスを予測することをめざしています。

具体的な内容

これまで環境変化に伴う生理的な応答（心拍とか唾液ホルモン）について測定をしてきました（科研費：26463219など）。

現在は眠りの効果に興味を持っていて、睡眠中の身体の動きや、心拍変動、唾液ホルモンなどから、眠りの質的な評価を試みています。ちょっとだけデータ処理もするので、心拍の時系列データを使って自律神経活性の様子なども可視化しています。睡眠の質が影響する（と思われる）翌日のパフォーマンスを調べる手法についても模索していて、各種の判断テストやトラッキング作業などに注目しています。



Information（情報）

もともと医療従事者ではないので、看護系のかたに医療に関するアドバイスやサポートを受けながら、研究をしています。他大学のチームとも共同で実験をすることがあります。

育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発

【キーワード：月経前症候群、育児期、尺度開発、健康教育】

領域・氏名

別科助産専攻 准教授／ 濱寄真由美

概要

本研究の目的は、児童虐待の早期発見・早期予防に育児中の母親の月経前症候群の症状軽減を目的として開発した「育児期の月経前症候群尺度」が、月経前症候群の診断（第1スクリーニング）と母親のセルフケア（看護介入）になっているか検討し、月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムを開発する研究です。

具体的な内容

これまで、0歳から6歳児を育児中の母親を対象とし、育児中の月経前症候群（以下PMSと略す）のある母親が、月経前に子どもとパートナーに及ぼす影響を測定する「月経周期に伴う育児感情尺度の開発と有効性の評価」を研究してきました（科研費：23593330,15K11678,19K11042）。

具体的には、0歳児～6歳児の母親を対象に、「育児期の月経前症候群尺度」活用しPMSの診断を実施しています。次に、PMSと診断した母親の精神的健康と身体的健康を目的とした健康教育（ストレス対策・貧血予防の食事指導・冷え対策・運動療法）を実施し看護介入を行います。最後にPMSのある母親のメンタルヘルスプログラムの開発をすることです。

Information（情報）

本研究は、群馬大学大学院、国際医療福祉大学と九州看護福祉大学との共同研究です。また、月経前に、イライラする女性の「食事療法」、「運動療法」、「ストレスマネジメント」、「冷え対策」の健康教育・出前講義が可能です。

高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究

【キーワード：高齢初産婦、夫、サポート】

領域・氏名

別科助産専攻 講師／ 神園洋子

概要

高齢初産婦の夫に焦点をあて、妻が妊娠中から産後まで夫が父親役割を獲得していく中で必要としているサポートを明確にすることを目的に研究しています。

具体的な内容

これまで、若年母親の育児の支援に焦点をあててきました。近年は、女性の高学歴化、社会進出により晩産化が進んでいます。高齢初産婦のサポートは、実母、夫であるがその実母も高齢化しておりサポートができない、夫も父親役割獲得中であり、どのようにサポートしていいかわからない状況です。夫の産後うつも発症すると報告されています。高齢初産婦をささえるにはまず、夫が必要としているサポートを明確にする必要があると考え研究に取り組んでいこうと考えております。

Information（情報）

小学4年生とその保護者、中学生に対して、「命について」、「思春期教室」、「看護職の仕事」について出前講座を行いました。このテーマでの出前講座は可能です。



研究テーマ

熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス

【キーワード：熟練助産師、】

領域・氏名

別科助産専攻 助教／ 福永美紀

概要

熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセスについて検証します。

具体的な内容

少子化や第1子出産時の平均年齢の上昇、合併症妊娠の増加により、安全で満足できる妊娠出産環境を求める社会のニーズが高まる中、産科医師不足により助産師の専門性の発揮と実践能力の向上は一層求められています。分娩期は人生のうちで最もダイナミックで目に見える変化を伴う時期であり、この時期の助産師の介入は、産婦や胎児のその後に大きな影響を及ぼします。

そこで、熟練助産師がどのように産婦をとらえ、経時的に変化する状況を把握し、必要な助産ケアをタイミングよく介入しているのか、明らかにしています。

Information (情報)

月経随伴症状のある女性のプレコンセプションケア

【キーワード：月経随伴症状 プレコンセプションケア】

領域・氏名

別科助産専攻 助手／ 山本眞海

概要

プレコンセプションケアの視点から、青年期・性成熟期のステージにある女性の健康を増進し、月経随伴症状などの影響を最小限とした自分らしく、より質の高い生活を送るための研究に取り組みたいと考えています。

具体的な内容

月経は、女性の日常生活に影響を及ぼす生理現象の一つです。しかし、月経随伴症状によりイライラや月経痛、冷え症などの有訴者は多くみられます。自己の生活を見つめ直し、将来を見据えた健康知識を得ることで、自己の健康維持・向上につながるのではないかと考えるようになりました。女性の一生を通し寄り添うことができる助産師を目指すうえで、月経随伴症状とプレコンセプションケア（自分を管理して健康な生活習慣を身につけること。妊娠を計画している女性だけでなく、すべての妊娠可能年齢の女性にとって大切なケア）の結びつきについての研究に取り組みたいと考えています。

information

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2021年度版 研究者索引(五十音順)

研究者氏名	研究テーマ	ページ
あ 伊尾喜恵	学生が患者像を描く過程に関する研究	5
壹岐さより	妊孕性に重点をおいた思春期健康支援	23
池間功一	精神科病院における退院支援に活かす精神科退院前訪問に関する研究	10
上富史子	1. 3～5年目中堅看護師の臨床判断 2. 計量テキスト分析を用いた看護学生のアセスメントの特徴	32
大館真晴	日本上代文学作品の文献学的研究	51
大野理恵	更年期女性への健康支援に関する研究	24
岡崎実子	小離島の保健活動の展開方法の特徴と推進要因	21
小河一敏	看護の為の自然科学教育・生活科学教育の構築	45
小野美奈子	保健師の実践力強化を目指した現任教育	15
か 甲斐鈴恵	健やかな親子を育む子育て支援に関する研究	26
勝野絵梨奈	感染看護における教育方法に関する研究	37
金子美千代	地域での暮らしを支える人材養成	12
神薊洋子	高齢初産婦の夫への育児の支援に関する研究	54
川北直子	多読学習の効果、看護学生と異文化理解	49
川西幸広	看護学生の技術習得に関する研究	33
河野朋美	知的障害者の受診支援／健康管理支援	18
河野義貴	精神疾患に関する早期介入と再発予防	8
川原瑞代	地域志向の看護力育成	11
川村道子	精神科病院中堅看護師の新人看護師教育力育成	7
串間敦郎	高齢者の介護予防運動の開発と普及	46
葛島慎吾	精神科看護実践における直観に関する研究	9
藏元恵里子	1. 看護行為で生じる身体活動の測定・評価 2. 神経難病患者の療養下における看護実践の可視化に関する研究	43
栗原保子	看護学教育における教育方法に関する研究	36
五反田奈々	医療的ケアを必要とする子どもの養育者が子育ての喜びを感じるプロセスと要因	28

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2021年度版 研究者索引(五十音順)

研究者氏名	研究テーマ	ページ
さ 坂井謙次	実習指導の自己評価に関する研究	4
佐藤信人	超高齢社会における社会福祉の在り方に関する研究	47
重久加代子	がん看護におけるケアリングの研究	34
島内千恵子	速乾性擦式手指消毒薬の消毒効果を低下させないための使用方法の検討	39
菅野幸子	看護大学生の生化学(代謝学)教育に効果的な教育内容と教授方略	40
た 高橋秀治	地域における生活習慣予防活動に関する研究	19
高本佳代子	健康推進を目的とした地域ネットワークに関する研究	20
武田あゆみ	高齢者のQOLに関する研究	35
武田千穂	感染管理を推進する看護職者の教育プログラムに関する研究	38
田中美智子	健康維持増進のための睡眠習慣とその改善をもたらすケアに関する研究	41
津田智子	看護技術の教育に関する研究 看護技術のエビデンスに関する研究	2
な 中尾裕之	特定健康診査・特定保健指導や医療費に関する分析とその可視化 ～自治体への支援のために～	44
長坂 猛	睡眠の変化がもたらす翌日の処理能力	52
中角吉伸	要支援・要介護者のための介護予防運動に関する研究	13
長鶴美佐子	思春期および更年期健康支援開発に関する研究	22
長友舞	女性の健康支援に関する研究	25
中村千穂子	がんを経験した看護職者を対象としたピアサポート研修プログラム開発	16
は 橋口奈穂美	学生の自己評価能力を高める実習指導方法に関する研究	27
濱寄真由美	育児期の月経前症候群のある母親のメンタルヘルス支援プログラムの開発	53
原村幸代	脳血管障害急性期にある患者の家族への看護	48
久野暢子	HIV陽性者へのセクシュアルヘルス支援	29
吹上苑子	学生が自ら学ぶ力を高めるための指導に関する研究	6
福永美紀	熟練助産師が分娩期に介入する助産ケアのプロセス	55
邊木園幸	高齢者施設における感染対策に関する研究	42
ヘンスリー ジョール	国際コミュニケーションツールを備えるため	50

宮崎県立看護大学 研究シーズ集 2021年度版 研究者索引(五十音順)

研究者氏名	研究テーマ	ページ
ま 松本憲子	母親の育児力形成支援に関する研究	17
宮ゆうこ	がん終末期高齢者の”その人らしさ”を支える訪問看護師の看護の特徴	14
毛利聖子	看護理論の修得過程 / 人権・倫理教育の構築	3
や 矢野朋実	遺伝性のがんの患者と家族への看護	30
山岡深雪	慢性疾患患者の療養生活支援に関する支援	31
山岸仁美	実践方法論の意識的適用・神経難病患者への看護	1
山本真海	月経随伴症状のある女性のプレコンセプションケア	56

お問い合わせ

各教員の研究シーズの教員名がプロフィールページへリンクしています（大学ホームページ www.mpu.ac.jp 内の教員紹介）。

そちらにメールアドレスがありますので、お気軽にお問い合わせください。